

1 概要

平成27年、新潟市が文化庁の「東アジア文化交流都市」の一つに選ばれ、その関連で、「東アジア<書の美学>」と題して、8月から9月にかけて、展覧会、国際シンポジウム、大学生による書のワークショップを大きな柱とする事業を展開した。内外に書王国新潟を大きく発信できた。

平成28年2月6日、八一と深いかわりのある奈良・京都との第1回交流会を京都で開いた。

移転2年目にあつた27年度は、前年度同様、12月～3月の入館者が2000人台を突破した。市街地に移転した効果がはっきりと出たといえる。

〔書の美学〕関連

＜展覧会＞「書的美ヒストリー—藤井有鄰館所蔵名品でつづる」（平成27年8月1日～9月9日）は、中国の名品を中心に、書の源流をたどった。にいがた文化の記憶館を第2会場に、中国・韓国・台湾・モンゴルの現代書家の作品も展示した。2296人の入場者があつた。

＜「東アジア<書の美学>伝統と変容」＞欧米、東アジアから研究者を招いて開いた国際シンポジウム。9月3～4日、新潟市りゅーとぴあ能楽堂で開いた。2日間で223人が入り、熱心な討議に聞き入った。

＜ワークショップ＞さまざまな角度から書に親んでもらう企画。新潟大、奈良教育大、東京学芸大、安田女子大が参加した。メディアシップを会場に、良寛書の拓本取り、木簡づくり、書の絵巻物づくりなど各大学が趣向を凝らした体験メニューを用意し、200人余りがそれらを楽しんだ。

ほか、市民交流書道展（9月1日～6日、りゅーとぴあギャラリー）は刻字作品を展示（来場321人）、東京学館新潟高校の生徒による書道パフォーマンス（9月5日、メディアシップ）は200人が観覧した。

〔展示〕春は「新収蔵品展」（27年4月7日～7月20日）、秋は「會津八一を支えた人々」（9月19日～12月6日）、冬は「會津八一芸に遊ぶ—詩書画一致の世界」（12月16日～平成28年3月27日）。新たな視点と切り口で、八一の学芸芸術の世界を紹介した。

〔講演会〕5月15日「會津八一の書の魅力」（101人。萱のり子東京学芸大教授）、8月1日「祖先文化へのまなざし—永遠の美—」（120人。藤井善三郎藤井有鄰館名誉館長）、10月7日「哀傷の歌・山鳩」（103人。和泉久子鶴見大名誉教授）、平成28年3月9日「絵手紙の世界に触れる」（262人。絵手紙作家小池邦夫氏）

〔交流会〕奈良・京都との交流は、新潟市との交流協定に基づいて第1回を京都で開いた。名刹の高僧、京都・奈良の博物館・美術館関係者、行政関係者が集まり、會津八一記念館をはじめ新潟市側との親交を深めた。

〔イベント〕3月9日、日本絵手紙協会の協力で体験講座を開催。参加82人。

2、事業の内容

（ア）展覧会事業 常設展（経費1,820,625円）=前年度2,846,597円比36%減

特別展（経費1,930,422円）=前年度6,230,871円比69%減

	26年度 入館者数	26年度 開催日数	27年度 入館者数	27年度 開催日数	27年度 入館累計
4月	828	26	589	21	589
5月	1603	22	613	27	1202
6月	0	0	513	24	1715
7月	0	0	800	18	2515
8月	1753	27	0 (1477)	0 (27)	2515 3992
9月	2523	25	248 (819)	10 (9)	2763 5059
10月	776	19	615	27	3378(5674)
11月	1241	26	522	25	3900(6196)
12月	334	12	263	17	4163(6459)
1月	659	24	556	24	4719(7015)
2月	461	24	574	24	5293(7589)
3月	626	25	743	24	6036(8332)
合計	10804	230	6036(8332)	241(277)	

27年度観覧料収入=特別展1,464,640円 常設展1,676,300円（前年度総額4,508,240円）

(イ) 展示事業

【新潟市との共催による国際シンポジウム東アジア〈書の美学〉関連事業】

主 催：「東アジア〈書の美学〉」実行委員会

(構成団体：新潟市、公益財団法人會津八一記念館、新潟日報社、BSN 新潟放送)

後 援：早稲田大学會津八一記念博物館、美学会、民族藝術学会、日本美術教育学会、全国大学書道学会
全国大学書写書道教育学会、新潟県書道教会

読売新聞新潟支局、毎日新聞新潟支局、朝日新聞新潟総局、産経新聞新潟支局

日本経済新聞社新潟支局、共同通信社新潟支局、時事通信社新潟支局、NHK新潟放送局、N S T
TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21

特別協力：文化庁

○東アジア<書の美学>企画展覧会 書的美ヒストリアー藤井有鄰館所蔵名品でつづる一

会 場：新潟市會津八一記念館、にいがた文化の記憶館

会 期：平成 27 年 8 月 1 日 (土) ~9 月 9 日 (水) 開催日数 35 日間

入館者数：2, 296 人 (前年度：「會津八一の奈良」～歌集『鹿鳴集』の世界～ 4,276 人)

東アジア〈書の美学〉企画展覧会は、中国の名品を中心に書の源流から現代までをたどった。會津八一記念館会場では、京都・藤井有鄰館所蔵品を中心に、中国周代から清代にいたるまでの青銅器、仏像、石刻拓本、書、絵画など東洋美術品を展示した。にいがた文化の記憶館会場では「新潟と東アジアの近現代の書」をテーマに陳列。良寛をはじめ巻菱湖らの幕末三筆や東アジア圏で活動している海外作家の書も展示した。

有鄰館所蔵品は、新潟ではなかなか目にすることのできない貴重な品々ばかりで、特に乾隆帝が着ていた龍袍の刺繍が鮮やかで感動したという来場者がいた。半面、記念館から記憶館に向かう動線など、鑑賞の順序がわかりにくいとの指摘が数件あった。

○東アジア文化都市市民交流書道展 (薄田東仙と仲間の刻字展)

会 場：新潟市民芸術文化会館 りゅーとぴあ ギャラリー

会 期：平成 27 年 9 月 1 日 (火) ~9 月 6 日 (日) 開催日数 6 日間

入館者数：321 人

東アジア文化都市 2015 に選出された中国・青島市、韓国・清州市の市民の書作品と、新潟市の刻字家・薄田東仙氏とその門下生たちの作品を紹介した無料の展示会。新潟市内では東アジアの現代書家の作品を見る機会はまだで、ハンゲル書などを鑑賞できる良い機会となったとの意見があった。薄田先生が関係した部分は安心して展示することができたが、中国、韓国から作品が届くかわからない状況での準備となった。最終的に何とか作品を並べることができた。会期中には刻字のワークショップも開き、20 人が参加した。

【企画展】＝記念館自主企画

① 新収蔵品展

会 期：平成 27 年 4 月 7 日 (火) ~7 月 20 日 (月祝) 開催日数 90 日間

入館者数：2, 515 人 (前年度「ありがとう 39 年 収蔵品で綴る物語」2,193 人)

2012 年から 2014 年度までの間、新たに収蔵した作品や資料を披露した。とくに會津八一の親族から一括寄贈を受けた八一の墨蹟には、中央公論美術出版から刊行した作品集に掲載された優品が多く寄せられた。また、約 15m にも及ぶ説教状「與奥田勝書」、記念館元評議員で八一の学統を継ぐ高嶋義彦氏 (會津の高弟・安藤更生門下) から寄贈を受けた中国明器など、いずれも当館のコレクションに彩りを添えるものばかりだった。来場者から内容吟味したコレクションで出来がよいとの評価を受けた。一方で、若者にもわかりやすくさらにかみ砕いた説明がほしいとの注文があった。

② 會津八一を支えた人々～交流の中で生まれた名品たち～

会期：平成 27 年 9 月 19 日 (土) ~12 月 6 日 (日) 開催日数 68 日間

入館者数：1, 478 人 (前年度「會津八一と茶の湯～喫茶去の世界～」2,351 人)

新潟日報連載「地方紙と戦争」で坂口献吉が取り上げられ、2015年に八一の新しい歌碑「やまばとは」が胎内市に建立されたことから企画された展覧会。また、移転一周年にあわせて、新潟市万代地区周辺に残る會津八一作品も紹介した。「胎内」「万代」など新潟の地区に限定した紹介はわかりやすいという意見があった。その一方で、戦中戦後の厳しい時代をテーマにしたことで、来館者の足が遠のいた面もあったかと思う。以前の類似テーマの展覧会「(特別展) 逆境からの再出発」(平成12年、1889人)、「新聞人・會津八一」(平成17年、500人)、「戦争と八一」(平成23年、987人)、「きい子その愛」(平成24年、1615人)。

③藝に遊ぶ～詩書画一致の世界～

同時開催第9回秋艸道人賞「會津八一の歌を映す」写真コンテスト入賞入選作品展

会期：平成27年12月16日(水)～平成28年3月27日(日) 開催日数83日間

入館者数：2,043人(前年度「會津八一と斑鳩の里」新春特別展示 柳原白蓮 佐渡にて詠める短歌)1,746人)

八一は、若いころから絵を書くことが得意だった。展覧会では、八一が墨絵で描いた四君子(梅、竹、蘭、菊)、果物、小動物、仏像の絵などに、愛唱の漢詩、自作の歌や俳句を書き入れた自画賛や油絵、絵手紙を展示した。また、八一と交流のあった脳神経外科医の中田瑞穂、画家の杉本健吉、長井亮之、版画家・棟方志功、恩師・坪内逍遙らとの合作も紹介した。八一の書画をまとまった形で展示したことが、来場者には新鮮に映ったようだ。また飄逸した八一の作風に親しみやすさを感じたという感想が寄せられた。期間中、絵手紙協会の協力により、絵手紙作家小池邦夫氏の講演会や谷雅子氏による絵手紙体験講座を実施した。当初の定員を超える応募数で大好評だった。

(展示に対する評価) = 入館者アンケート結果 (+ = 好評、 - = 不評)

回答者数 560名 (回答率 6.7%)

展覧会名	作品解説の評価		展示量の評価		全体的評価	
新収蔵品展	+87%	-10%	+83%	-12%	+93%	普通 5%
書の美ヒストリア	+82%	-15%	+79%	-18%	+92%	普通 4%
支えた人々	+81%	-17%	+77%	-21%	+88%	普通 11%
藝に遊ぶ	+92%	-6%	+85%	-12%	+98%	普通 1%
合計	+86%	-12%	+82%	-15%	+93%	普通 5%

(接客に対する評価) 良い 60% 普通 36% 悪い or 無回答 4%

★総括＝総合計では、展示に対する評価は昨年度と比較するとほとんど変化はしていない。展覧会では「藝に遊ぶ」展の好評が際立つ。移転後アンケートの回収率は大きく変化することなく推移している。移転2年目だが、①事務室や廊下の騒音、②展示室の広さ、③記憶館の受付の場所、入館料徴収方法などーに苦情が寄せられている。アンケート集計の今後の課題として、どのように活用、改善していくか検討する必要がある。

(主な来館者) ※当館理事、評議員は除く

- ・4月＝女優五大路子氏(11日)、品川清澄懷堂美術館理事長、井後尚久学芸員(21日)
- ・5月＝深滝新大人文・法経同窓会会長、伊藤事務局長(12日)、萱のり子東京学芸大学教授(14日)、澤田博史匠出版代表、磯島巻菱湖記念時代館館主(24日)
- ・6月＝長谷川義明良寛会会長、野沢慎吾セコム会長(11日)、高橋共同通信社支局長(12日)、大倉宏新潟絵屋代表(26日)
- ・7月＝堀口大学の娘堀口すみれ子氏(4日)、万葉洞大濱正氏(18日)、藤井善三郎有鄰館会長(31日)
- ・8月＝吉田眞理ドナルド・キーンセンター理事、故中山蘭子様の姪(1日)、伊藤郁太郎東洋陶磁美術館名誉館長(4日)、矢澤健一新潟県歴史博物館館長、駐日モンゴル大使館(D.ハリウン氏)、国際課金子氏(5日)、新潟県書道協会伊藤省風氏、書壇院・和田閑房夫妻(6日)、松矢国憲新潟県立近代美術館学芸員、北海道新聞社員(20日)、毎日新聞学芸部桐山正寿氏、書家長谷川白楊氏(29日)、書家村山臥龍氏(30日)

- ・9月＝ロタール・レデローゼハイデルベルク大学東洋美術史研究所シニアプロフェッサー、ボグダノワ＝ジェーニャ・ハイデルベルク大学大学院博士課程、ヨーレン・エスカント社会科学高等研究院、ジョン＝カーペンター・メトロポリタン美術館日本美術キュレーター、邱振中中央美術学院教授、劉悦笛中国社会科学院哲学所研究員、朴聖媛国立中央博物館遺物管理部學藝研究士、関周植嶺南大学嶺南大学校美術学部、傅申台湾大学教授、潘禛佛光大学教授、エディー・チャン氏、ダニエル・サントレ・デ・ラ・ベガ氏、田中圭子京都造形芸術大学講師（1日）、尾崎信一郎鳥取県立博物館副館長、島谷弘幸九州国立博物館館長、下野健児花園大学教授（2日）、新潟県書道協会笠原健一郎氏、鳥取県立博物館尾崎信一郎館長、哈爾濱市人大代表団、延辺朝鮮族自治州人大代表団（3日）、横田全国大学書道教育学会会長（6日）東京大学経済学部小島浩之氏（8日）
- ・10月＝内田義雄氏、宮田亮平東京藝術大学学長（4日）、可児光生美濃加茂市民ミュージアム館長（6日）、野口幸男佐賀県立点字図書館館長（10日）、川上宗雪江戸千家家元、中野進、宗順ご夫妻（17日）、横山秀樹新津美術館館長（25日）、岡大阪屋社長（29日）
- ・11月＝中島榮一樋口記念美術館館長（1日）、谷雅子日本絵手紙協会公認講師（11日）、堀澤祖門 京都・三千院門跡（15日）
- ・12月＝浅井慎平氏、若松飛鳥園カメラマン、高橋道映新潟日報相談役（1日）、高橋郁丸氏（18日）、北方文化博物館田中学芸員（22日）、蔵前克也石水博物館学芸員（24日）
- ・28年1月＝中条會津八一会今村克治氏、中野隆一氏（7日）、樋木尚一郎樋木酒造社長、シネウインド齋藤正行氏（8日）、郷土史家山本修巳氏（29日）
- ・2月＝中津川英子BSNアナウンサー（2日）
- ・3月＝絵手紙作家小池邦夫氏（9日）古塩NST事業局長（15日）

（ウ）講演会事業

【東アジア〈書の美学〉関連】

①国際シンポジウム

日時：平成27年9月3日（木）、4日（金）午前9時30分～午後6時

会場：りゅーとぴあ5階 能楽堂

入場者：223人

9月3日（木） テーマ：中国書法の伝統の形成

開催趣旨・基調講演：神林恒道（新潟市會津八一記念館）書の美学－東西の美意識の間で

発表：加地伸行（大阪大学）

中国哲学における伝統の形成・文字学

傅申（台湾・台湾大学）

〈流日半卷本〉により台北故宮博物院蔵《自叙帖》は懐素真跡に非ざるを論ず

ロタール・レデローゼ（ドイツ・ハイデルベルク大学）

中国最大の奥書－579年に鐵山に刻まれた《石頌》

邱振中（中国・中央美術学院）

書法作品の中の運動と空間

ヨーレン・エスカント（フランス・社会科学高等研究院）

美的カテゴリーとしての逸品

－中国書画論における書から絵画へ

劉悦笛（中国・中国社会科学院）現代中国における書の実験－徐冰の作品を例として

討論会：「新潟の書と文化」

ファシリテーター：神林恒道

登壇者：野中浩俊（岐阜女子大学）、角田勝久（新潟大学）、清水文博（新潟大学）

松矢国憲（新潟県立近代美術館）、喜嶋奈津代（新潟市會津八一記念館）

9月4日(金) テーマ:韓国・日本における書の変容

発表:島谷弘幸(九州国立博物館)

中国書法の影響と和様の書

萱のり子(東京学芸大学)

和歌をつむぐ書—仮名の詩情

朴聖媛(韓国・国立中央博物館)

韓国ハングル書芸について

—ハングル書芸の変遷と中国書法との関係

関周植(韓国・嶺南大学)

韓国の芸術文化、その「モット」の世界

ジョン・T・カーペンター(アメリカ・メトロポリタン美術館)

アメリカにおける日本の書のコレクター—意味を超越した理解

ボグダノワ・ジェーニャ(ドイツ・ハイデルベルク大学)

戦後の日本前衛書道と欧米抽象絵画における余白の概念について

尾崎信一郎(鳥取県立博物館) 書と抽象絵画—1950年代の二つの実践

共同討議:「コンピュータ時代における書の可能性」

ファシリテーター:萱のり子

登壇者:下野健児(花園大学)、尾崎信一郎、潘福、関周植

ジョン・T・カーペンター、ボグダノワ・ジェーニャ

②4 大学学生による書道ワークショップ

日時:平成27年9月5日(土) 午前9時~午後2時

会場:メディアシップ1階 みなと広場、20階 そらの広場

入場者:208人(新潟大学59人、東京学芸大学24人、奈良教育大学84人、安田女子大学41人)

新潟大学:「良寛の書を味わおう~地震後之詩~」

東京学芸大学:「かく・あそぶ・つながる—カルタと絵巻物づくりにチャレンジ!—」

奈良教育大学:「木簡なら(奈良)任せて」「Calligraphy in Melbourne ~YAMATO2015 活動~」

安田女子大学:「拓本 アラカルト」

③東京学館高校生による書道パフォーマンス

日時:平成27年9月5日(土) 午後3時~3時20分

会場:メディアシップ1階 みなと広場

入場者:200人

【記念館自主企画】

①八一祭記念講演会(有料 500円)

テーマ:「祖先文化へのまなざし~永遠の美~」

講師:藤井善三郎氏(有鄰館名誉館長・書作家)

日時:平成27年8月1日(土) 午後2時~3時30分

会場:日報ホール

入場者:120人

②企画展関連 第1回文芸講演会(有料 500円)

テーマ:「會津八一の書簡の魅力」

講師:萱のり子氏(東京学芸大学教授)

日時:平成27年5月15日(金) 午後2時~3時30分

会場:日報ホール

入場者:101人

③企画展関連 第2回文芸講演会(有料 500円)

テーマ:「哀傷の歌 會津八一の『山鳩』」

講師:和泉久子氏(鶴見大学名誉教授、当館評議員)

日時:平成27年10月7日(水) 午後2時~3時30分

会場:日報ホール

入場者:103人

④企画展関連 第3回文芸講演会（有料 500円）
 テーマ：私の絵手紙人生～會津八一との出会いを通じて～
 講師：小池邦夫氏（絵手紙作家）
 日時：平成28年3月9日（水）午後1時30分～3時
 会場：日報ホール
 入場者：262人

⑤絵手紙体験講座（有料1,500円）
 講師：谷雅子氏（日本絵手紙協会公認講師）
 日時：平成28年3月9日（水）午前10時～正午
 会場：日報ホール
 入場者：82人

（エ）普及活動事業

①作品解説会

○新潟市會津八一記念館企画展＝講師：喜嶋、湯浅学芸員
 会期中第2、4日曜日 午前11時～正午

②出前講座＝その他の団体主催による講演

- ・ 6月3日（水） 講演「名誉市民 會津八一の魅力～ふるさとを愛した文人～」
 主催：きらめきの会 会場：新潟市西地区公民館 講師：喜嶋学芸員 16人
- ・ 6月15日（月） 講演：「絵手紙と會津八一」
 主催：日本絵手紙協会 会場：福岡会場 講師：神林館長 93人
- ・ 6月23日（火） 講演「最後の文人 會津八一の世界」
 主催と会場：中村屋サロン美術館 講師：喜嶋学芸員 17人
- ・ 7月4日（土） 講演「會津八一と新潟の文化～そして越の学び舎と～」
 主催：新潟大学法文経同窓会 会場：東映ホテル 講師：神林館長 100人
- ・ 7月10日（金） 同行解説「八一足跡巡りバスツアー 胎内市柴橋庵－會津八一の歌碑除幕式」
 主催：秋艸会 講師：喜嶋学芸員 25人
- ・ 7月25日（土） 講演：「絵手紙と會津八一」
 主催：日本絵手紙協会 会場：札幌会場 講師：神林館長 25人
- ・ 8月25日（火） 講演：「會津八一と川喜田半泥子」
 主催と会場：新潟日報カルチャースクール 講師：喜嶋学芸員 10人
- ・ 9月22日（火） 講演「會津八一と小杉放菴」
 主催と会場：新潟日報カルチャースクール 講師：湯浅学芸員 10人
- ・ 11月11日（水） 講演「名誉市民・會津八一の魅力」
 主催：全国教育女性連盟 新潟支部 講師：湯浅学芸員 70人
- ・ 11月24日（火） 講演「會津八一とキャリア教育」
 主催：「中学生と進路」編集部会（新潟県中学校校長会） 講師：湯浅学芸員 25人
- ・ 12月9日（水） 講演「會津八一について」
 主催：中条會津八一会 会場：胎内市立築地小学校 講師：喜嶋学芸員 40人

- 平成 28 年 2 月 13 日（土）講演「名誉市民 會津八一の魅力～幅広い人脈～」
主催：荻川コミュニティ振興協議会生涯学習部 会場：荻川コミュニティセンター
講師：喜嶋学芸員 43 人
- 3 月 8 日（火）講演「會津八一と奈良・京都修学旅行案内」
主催：山潟中学校 講師：湯浅学芸員 140 人

（所蔵品貸出展覧会）

- 「良寛の書と敬慕者たち」
6 月 6 日（土）～7 月 26 日（日） 所蔵品 1 点貸出 にいがた文化の記憶館
- 「砂丘展」
7 月 3 日（金）～10 月 14 日（水） 所蔵品 3 点貸出 新潟大学学術情報基盤機構旭町展示館
- 「會津八一を支えた人々～交流の中で生まれた名品たち～」
9 月 19 日（土）～12 月 20 日（日） 所蔵品 1 点貸出 北方文化博物館
- 第 8 回秋艸道人賞写真コンテスト入賞入選作品 巡回展
 - 4 月 1 日（水）～ 4 月 11 日（土） 早稲田大学會津八一記念博物館
 - 4 月 16 日（木）～ 5 月 10 日（日） 市島邸（新発田市）
 - 5 月 15 日（金）～ 6 月 7 日（日） ミュゼ雪小町（上越市） 1,769 人
 - 6 月 11 日（木）～ 6 月 20 日（土） いかるがホール
 - 6 月 23 日（火）～ 7 月 5 日（日） 奈良県立図書情報館
 - 8 月 29 日（土）～ 9 月 13 日（日） 相国寺承天閣美術館
 - 11 月 13 日（金）～11 月 15 日（日） 胎内市産業文化会館

（オ）学習講座（参加者負担）

- 會津八一の歌を読む会 講師：若月忠信氏（文芸評論家）
砂丘館 毎月第 1 土曜日 受講者 20 人

（カ）イベント

- 「會津八一の歌を映す」第 8 回秋艸道人賞写真コンテスト（総事業費 2,578,597 円）
 - 公募期間 4 月から 11 月（作品搬入 11 月 4 日～14 日）
 - 応募点数 145 点
 - 応募人数 91 人（県内 56 人 県外 35 人）
 - 審査委員 浅井慎平（委員長）、塚原史、若松保広、和泉久子、神林恒道の 5 氏
 - 審査会 12 月 1 日（火） 14 時～17 時 メディアシップ 13 階会議室
 - 審査結果 秋艸道人賞に新潟市の伊藤政幸さん
奨励賞は 7 点（合計 7 人、県内 4 人、県外 3 人）
入選は 23 点（合計 20 人、県内 12 人）
 - 記者発表 12 月 2 日 午前 10 時～
新潟市政記者クラブ 浅井委員長、神林館長、武藤事務長 高岡事務長代理
 - 授賞式、作品講評会＝審査委員と受賞者の対話方式（入場無料）
28 年 2 月 11 日（木祝）午後 2 時～4 時 日報ホール 参加人数 97 人
 - 祝賀会（参加者負担） 午後 5 時～6 時 30 分 日報ホール 参加人数 56 人

（キ）鑑定会（経費 237,736 円）

- 春の部 平成 27 年 6 月 5 日（金） 総点数 20 点 認定数 15 点 収入 650,000 円
- 秋の部 平成 27 年 10 月 20 日（火） 総点数 29 点 認定数 23 点 収入 980,000 円

(ク) 新収蔵品

- 寄贈 會津八一の墨蹟 1点 (評論家亀井勝一郎旧蔵)
會津八一書簡 33通
計34点

(ケ) 販売活動

- ・「学規」割引セール 実施期間 27年度 (27年4-5月、28年2-3月)
額装21点 未表装4点 色紙26点 販売合計 391,400円

(コ) 広報活動

- ①新聞 (記事掲載は県立図書館データベースより會津八一関連記事を検索)
〔新潟日報〕 記事66回 広告80回 (複製学規16回 展覧会64回)
〔朝日新聞〕 記事1回
〔読売新聞〕 記事1回
〔産経新聞〕 記事1回
〔信濃毎日新聞〕 記事1回

②テレビ、ラジオ

〔BSN新潟放送〕

- 東アジア<書の美学>企画展覧会 書之美ヒストリアー藤井有鄰館所蔵名品でつづるー
・テレビスポット (15秒) 23本
・9月3日 (木) 国際シンポジウムの模様を 18:15~「Nスタ」で放送

○新収蔵品展

- ・5月20日 (水) 15:50「BSN ニュース」で放送

○藝に遊ぶ~詩書画一致の世界~同時開催第9回秋艸道人賞「會津八一の歌を映す」写真コンテスト入賞入選作品展

- ・ラジオスポット (30秒) 59本

〔NST〕

- ・市政ニュース 1本

〔NHK〕

- ・日曜美術館 アートピックス「書之美ヒストリア」展開催中
・新潟ニュースとラジオ PR 随時放送

③市報にいがた

展覧会、講演募集=7回

(サ) 学校団体見学

4月16日	新潟市立小新中学校	135人	10月8日	新発田市立本丸中学校	10人
5月1日	新潟清心高校	14人	27日	新発田市立猿橋中学校	5人
19日	東京学館新潟高校	46人	30日	新潟市立新津第二中学校	48人
〃	弥彦中学校	5人	28年1月21日	長岡市富曾亀小学校	20人
〃	豊浦中学校	4人	2月28日	国際情報大学留学生	30人
7月2日	新潟高校	378人			
8月4日	高文連新潟地区高等学校書道部	28人			
29日	新井高校書道部	6人			
9月5日	東京学館書道部	30人			
	新潟大学書道科	12人			
	奈良教育大学書道科	8人			
	安田女子大学書道科	7人			
6日	東京学芸大学	30人			
27日	東北大学国文学研究室	34人			